

平信物語
中

贈 父兄会卒業記念
寄 昭和五十九年度

0931	年
71	月
5	日
佛教大学蔵書	
第 273099 号	





本朝徳本第一目録

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

徳川幕府の御歴代

平治物語卷第二目錄

待賢門軍事付のふよりとる事

義朝六波羅よ家らる事并頼政心

習事付漢楚殺事

六波羅合戦の事

義朝よりいひの事

のふよりとる事并いひの事

常盤ちる志ん付信西子息との事

遠原よ志の事

のふよりとる事

義朝神弓をうけし事并みむ
いりまのれ事
よりのもあはらるる事らるる事

平治物語卷第二

待賢門軍付のよりの事

志保より六波羅の皇太子よりの事

いりまのれ事とる事らるる事

志保の事らるる事

尤もよりの事らるる事

大原よりいりまのれ事

いりまのれ事らるる事

いりまのれ事らるる事

いりまのれ事らるる事

佛敎大藏



りつとて海くわの朝敵入御大のりめ
る友軍りつとて川きりつとていふ
宮くわとて出んうきつとて官軍城入
く内裏とておこせとて火こいなる
日志のりあるなりとておほを下され
ん清盛の志こもつとて朝敵あるふ
しつとていふなりとて海の内いふ
時刻とてりつとていふなりとて
きい出来とてんう火失ありん糸とて
この勅定めていふなりとていふ

吳國とてりつとていふなりとて
きいもききちなりとていふなりとて
ぬんていふなりとていふなりとて
いふなりとていふなりとていふ
いふなりとていふなりとていふ
居れ清けいふなりとて清盛三河を頼盛あり
のもろりつとていふなりとていふ
息元忠のりつとていふなりとていふ
國子息元忠討つとて三河を討つとて
一勢友元忠討つとていふなりとて

おのとしを御しひるすいしつじあ
くつなほめら乃を食さしやす同十
帝さしあを体さしりししてはつるそ
たひにのよひは海軍の将軍あまの
海とさしとつしあの海軍よを入
めりあま乃しよきさかりりし年と
十三今のわしつこの大将なれりあり
地のあまのさしとせよららあひ
乃しあひよくうはすの海軍よを
よめりしらのしあのしあのしあの

よしつらつらあまのぬれあま
しあつらつらあまのぬれあま
よ抑留もりしつらつらあまのぬれあま
のりあまのさしりりあまのぬれあま
くくハ平治なるは花流を平安城なり
つしつハ平治なるは花流を平安城なり
里のあまの平らあまのぬれあまの
くしつらつらあまのぬれあまの
らあまのぬれあまのぬれあまの
しあまのぬれあまのぬれあまの

ふゆの御りく大炊の御門大宮おりく
へちあくるる明待賢都御門へ御
宮より大内へいふ言の門をうらう
りよとをく残の言をうらうせし明建
さいの御りく小門をともひにひくさ
大宮にお馬もむわく引あくる梅つ不
桐つ不ゆらさのつ月あくる後の前後東
光殿乃と記せつおもく所をもひり
となりくのきりし是皆源氏のせいられ
あしつたしつ廿よなるもちあむり大

宮におりく平家のあつたしつ
なれうあきくすしりふと千し
つなはと記せつとつりたれ大内を
むさりつりむひるむしつ記乃し
よ不とらひつらむしつまんゆしつ
えしつせつらつらつらんあつて
まは兼乃しつあく南階と下り
かひつあつておりしつらんあつて
馬はれんしつをせつをむれしつ
しつらつらつらつ大の御りく
あつたしつ

お百もといふ大宮のつとめのお
海も百の記もくくせよ
つとめいふは門の大將軍のつと
めりともいふは門の大將軍のつと
桓武天皇のつとめい大宮大戴と
りりちちちちちちちちちちち
生年二十ととなのりりりりりり
よるもつとつとつとつとつとつと
を侍もつとつとつとつとつとつと
りりりりりりりりりりりりりり

みりりりりりりりりりりりりり
大宮のつとめのおつとめ
ありりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりり
らんらんらんらんらんらんらん
りりりりりりりりりりりりりり
いりりりりりりりりりりりりり
藤原公家後を藤原のつとめ
次郎とつとつとつとつとつとつと
部長井の舟長別とつとつとつと

いりまゝに小卒六徳答の決断卒心乃
民者所もひこれ十節ありて右のせう
うこのか八節せきの決断し桐子
八節大更こし十七きくつらな体な
くまもむく大音勢とあをてい
の大物いもきんそ名のもこころん
清和天皇九代乃あうわんたろ
ししむちあしは倉れあく源を
し一卒くそのなりしも十め
武彦の大務乃軍の大物しとわら



第のせん生しあつ流うしし
く度し合戦し一更もぬく乃名
しききききつまろく十九いん
せんしきお百きのもん中しつろく入西よ
里ひししおひしししししししし
いもくししししししししししし
とららししししししししししし
大將軍とらんてうとさしししし
ししししししししししししし
ししししししししししししし
ししししししししししししし

しるしをいふておらひのりいふ
くらむれい大ゆと海とくさく平家の
うらむいともと三た海新なる事と
しるしとて百とくちゅうのそと
里をいふ源太とくちゅうと十七と
兵とて大將軍のゆとくちゅうと大庭の
自の本陣中よとくちゅうと揚右をい
ちとくちゅうと七八とくちゅうと
くらむとくちゅうと今十七とくちゅう
とくちゅうとておらひとくちゅうと

今ん大庭わいしとくちゅうと大將た
とくちゅうとつえは井て馬のりきつ
ゆふ和とくちゅうとつえは井と海り
う平將軍のこしとくちゅうとつえは
君とくちゅうとつえは井とつえは
くちゅうとつえは井とつえは井と
和のふ百とつえは井とつえは井と
百とつえは井とつえは井とつえは
とくちゅうとつえは井とつえは井と
とくちゅうとつえは井とつえは井と

くひもつ時あつては兵がらうとて大
将のりゝの大將志左のりつせせんしん
とらむももしな。とひくいのめゆ
ゆいおしなうとくんとしれ兵た
くちもれいのまよいはるもつ十七
あふ記ありしとみきれいとなん
ちの忠節同ら即せの結乃忠節性
あじとわとさうあうと百と記
申はるうとあう事しんせしと源
ちうとにいしうしんしんせしとあふ

みめんうりつとらあるきたちと
あつらうひよ。平源氏のちわ
なり津金んも平源のちわしん
敵よつとあうとらうん。かむる海ん
とりしとあうとらうん。大庭のむ
くのふれとあうとらうん。あ
うとらうとらうとらうとらうとらう
るうとらうとらうとらうとらうとらう
もてしんやお源たらなとらうとらう
とらうとらうとらうとらうとらうとらう

つをくつりしりしもいふもはかたし
はしつめいしりやなんちつめ
日ぬをたしし教をいふをいふあ
きしつめいしおしあせしつひつり
くもいしつあしつせしつひつり
うけつりいしつりや者たしつめ
かしつめいしつり大まわしつめ
く教をいふしつり中しつり
つりしつりいしつりつりつり
あつりしつり大まわしつり

かしつりいしつりつりつりつり
本はしつりいしつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
たつりいしつりつりつりつり
はつりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
つりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
つりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
つりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
つりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり
つりいしつりつりつりつり
しつりいしつりつりつりつり

系舟の馬うしおろきあゝぬかき城
木もたけの松さうんもこのころを
しんとていづれかたてさうしとふ
と藤田共衆るもさうしと十三束とら
てはうしよの河川をさうしとらとさなり
ありしよの鐘さうしとあろしとよ
つるやうしと二つ共たつらとさいさ
はさうしとあろしとあろしとさう
西源と是いさうしとさうしとさう
あうんたもさうしとさうしとさう

うしとさうしとさうしとさうしと
あしとさうしとさうしとさうしと
馬を屏風とさうしとさうしとさう
橋本乃らうしとさうしとさうしと
とらうしとさうしとさうしとさう
あしとさうしとさうしとさうしと
とたらあしとさうしとさうしとさう
しとさうしとさうしとさうしと
うあしとさうしとさうしとさうしと
ゆりうりうしとさうしとさうしと

一、くしと志のうらまきれと云た事の
 たるせよつとちかたにむらむらと云ふ漢
 乃紀信のうらまのいづらはあつてあ
 なるれつていづれあつたは天下の
 りるをいふと云つてあつてあつた
 とりあつたあつたあつたあつた
 のまきわらむらむらと云ふは福田の
 引つていふむらむらと云ふは源を
 まきわらむらむらと云ふは源を
 まきわらむらむらと云ふは源を

福田と云ふは源の大將と云ふ
 あつたあつたあつたあつた
 源をいふと云つてあつたあつた
 なるれつていづれあつたは天下の
 りるをいふと云つてあつてあつた
 とりあつたあつたあつたあつた
 のまきわらむらむらと云ふは福田の
 引つていふむらむらと云ふは源を
 まきわらむらむらと云ふは源を

むらゆはるるてくく 悪源とてむすこ
くじぬ女ハ志をきよまんとして
らむ地ふしむくくハなうーとさるる
ん新故た事おわらわなるくじ城
くいぶるりし志をりりハ虎口とのこれ
くお波羅ももくそわらくもなる二人
らさうくひなうーと海一ハめらりり
さらのらなり十二月二十七日れ己乃
くてもかりけまなかり一村あること
て凡のさうくく吹そらりてり廻り

自らふよまもつらりこれとのり
くくろ悪源た是城ん孫く子形と付
くのまやとの孫ひなれハおぬむ
つうくく子形と切てそりりくをり
もくくハひく孫付るよび可いあれた
一海をくくハれく 頼威ハ都号つ
とくハもさく母陳ハ大好ハもきん名
のこれハくハ好ハけハ大好ハ信
初天皇九代ハくくわんたさく源乃
あみんよくくハ名事く悪源た

うなまも〜してさげぬい〜うはそ〜す
もやりのの〜ろは〜中まの大ま志ん右
兵衛乃まけ新ま十命ま〜れ印〜こ
のまのぬ乃大捕志をた〜れ〜し〜
う我もぬり〜し〜も〜も〜ろ右兵衛の
ま〜も〜ま〜のま生年十二〜名ひつて
敵こ〜ら〜わ〜一隊ま〜ま〜せ〜こ
〜のま〜み〜も〜も〜た馬ま
〜れ〜ら〜な〜ま〜ら〜者たれ
軍ま〜ぬ〜ま〜ら〜ま〜し〜

のま〜ん〜も〜ろはま〜す〜ぬ
ま〜れ〜人ま〜れ〜のまのまの〜ん
てま〜し〜ま〜ら〜のま〜ら〜
〜れ〜ら〜門ま〜外へぬい〜ま〜
〜し〜し〜せ〜ま〜〜のま〜
〜川ま〜り平ま〜馬ま〜のま〜せ
のま〜ま〜源氏大の〜りの源氏
又ま〜のま〜ま〜ま〜ま〜
は〜大ま〜ま〜の〜のま〜ら〜ま〜
あ〜ま〜あ〜ま〜は〜映〜ま〜

より一々八町次郎と云々なるは又
ひのこ何れも乃やゆかやとせし者馬
一兩あつて流あつてもうひつらきかた
すうもおしとらゆめつたうしやの
りかへ向て流うらかかえんらおん
流井くちうらよきれいよりおきし
とらうらうらよきあひり一程り流も
ぬちなるきをらうらうら流井も色
じりうらうらよきくちひわらひの
りかへ向てよ川井くちいぬぬら

とら流井くちうらうら流井ぬひ
とらうらうら流井ぬえきりて元
とらうらうら流井ぬ切てわらうれ
とらうら八町次郎のよめとてま
流ひやう京りてむねは流井ぬあひ
もた刀やあつてゆりて何れも切
ゆり八町次郎もうらうら流井ぬ
しとらうら流井ぬ甲に流井ぬ切を
流井ぬしとらうら流井ぬとらうら
東へゆらうら流井ぬよめとてむし

々のめやの妻さゝららとておつら
 しくおひふくまゝの官軍と入り合は
 門にたのめよとていふれ源氏の妻
 へい入るもしてそとより一匹の
 子あらはるるもたふささといふ別當とて
 女兵衛といふおとよとお説也して
 東三條よりいへるおつらら一や言
 へば身まかりつりおつらら一橋のし
 志やようも合とつららめすといふの
 安藝大園の住人東條お節といふ所と

といふいおつらら一とて名は
 いはは後友友といふのまよひといふ
 むきあよといふいふいふいふいふい
 うまよひといふ住人大木といふ
 といふいといふいといふいといふい
 そのいといふいといふいといふい
 のいといふいといふいといふい
 といふいといふいといふいといふい
 といふいといふいといふいといふい
 といふいといふいといふいといふい
 といふいといふいといふいといふい

本邦なるにうけらひとてうおひく軍見
たるこの地なる者なありきとけうひら
るよふとてとてとてとてとてとてとて
らういなるてとてとてとてとてとて
ほもてとてとてとてとてとてとて
のてとてとてとてとてとてとて
らもてとてとてとてとてとてとて
をりてとてとてとてとてとてとて
ゆりもてとてとてとてとてとてとて
てとてとてとてとてとてとてとて

河原もくからとてとてとてとてとて
て河原とてとてとてとてとてとて
且凡そとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとて

義朝六波羅の寄らる事 并頼政心
智州事 漢楚歌の事

志程小六波羅のいふ條に橋とてとてとて

くしつめいりゅうひく約前源氏すな
りら跡しをてし紀とくんとはくろ
をまじ清盛をまじく忠は和と流ひて
相のむせしきたりくしと流しりてころ
ふゆうりく人いふゆい世御甲さうさ
ゆいりくさかんわくしてしゆゆん
とんれん世のまらわうらを人いして
ま(向)り君踏う一録よなへはくせん
とれせなるまらゆいなるそり
り人いまをりり何く乃人いもたう

ふゆえら色もるる片左者古とくふ百よ
さめくかをじりり兵庫のくしり
さいふ百よまやく六條海原よむ
ふり西源を後田城なりしてあきよむ
るころいよりゆいさんいあひひら
外あうらうらまけの平安よらみせん
町家とらゆいとおゆらそい
しそとんといくあし
じふゆい兵庫のうら源成り
らと一門なるい内裏(は)つん年

ながみいしとに引くもきくもあらはら
 のあたらちよのうらたみに敵せんもと
 ちよのうらうらうらも悪源太よりいかに
 きこいにせし細のさしつゝとまはしり
 してくつらな色條の悪源太のつゞみ
 りのうらうらと兵庫のうらとつゞみと西
 へんよりうらうらなりん車太のつゞみ
 としても源氏のゆらに海いりては
 ぬわらう一人なりとも車太はあて
 して志すぬきんぬきんたのうらう

つゞみのわらうらはらのせとうらた
 たりせむ結んだるも人へのうらうら
 そのまわらうはのうらとつゞみと
 圓とあつらうら七午二交はり
 くのつゞみはのうらうらつゞみ
 のうらうらぬのうらぬのうらぬ
 のうらうらつゞみのうらうら
 結なりはつゞみぬわらう人そよら
 くらうらうらうらうら者ぬつゞみ
 らはつゞみのつゞみぬわらうらぬ

昔の如きものなり其のしむるも漢の
色してせす一とあしうくめり名將
のめりてうう明ちるりよちとて
しものりたけり其のしむるも漢の
しううのまよすかりち兵とけりて是を
せむるまらぬやとてうういさしき
つておのれみよしはたけとんたより
て楚王大なるるをううてけりし
く其の母とるるをううてのたけり
てううらるるをううてのたけり

を春の事一乃者な色い完くうけり。
あつてううてううてううてううて
ううて其の母とるるをううてのたけり
よしはたけとんたよりてけりし
く其の母とるるをううてのたけり
てううらるるをううてのたけり
其のしむるも漢のしむるも漢の
しううのまよすかりち兵とけりて是を
せむるまらぬやとてうういさしき
つておのれみよしはたけとんたより
て楚王大なるるをううてけりし
く其の母とるるをううてのたけり
てううらるるをううてのたけり

なりあてしつて世よりし事あり
よび我もや死とてくすとして
しらぬよしてむびなりとてあまの
よもくもくもくあがりらうる
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら

大車はまの小事也昔はたうら
くもらるゝはとらたての武の
よもくもくもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら
それゆゑなりしりしとあはれ
うらみぬうもくあがりしむら

p ぎれの折あーんきいなるりーの
くみんりーぶつやうきいんさてい地やう
せりめらうとうれちりやぬくろひだ
あつらうあつらうたふまの信んてみ
ぎ入る敷あつらうあつらうあつらう
とらうp ぎらの目さうらゆせんとめめ海志
さ者くあるさうさうい中あへた
刀流んてくあは流りあは流りさうい
清いものさあさうさうも是程さうい
らさ(ま)くいされきさらp のきうーん

すくわらうし洋切さんととおひと押切
くれいし流り馬よりんてさうおん
ちうらうしむらぬりあもさうりせさう
もさうもさうさうあらうさういさうは
あつらうさうらうりつる也軍流もさうい
くめりつらさうさうさうさういあこ流て
あえぬりあやゆん漢てさうさうさう
繪君よ劍をこつらさうきいあさうい
らき流りあ(ま)さうさうさうい云知よて
さうさうさうさうあつら流らぬんさうあ

新田からあつていふやうにせんせんといふ
やうなれはうけりとおとすはぬいふ
うらわりのちり地をうらわらるの矢はひ
わりこりこりけらりうらわらる馬はうけ
うらわらるてけりけりうらわらる下もさ
なうらわらるおとすうらわらるうらわらる大
吉あつていふやうの大將軍のうけいふ
うらわらる大氣流をうらわらるうらわらる
あつていふやうのうらわらるうらわらる
源太より平うらわらるうらわらるうらわらる

ひくう平あつていふやうに是なうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる
うらわらるおとすうらわらるうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる
源平あつていふやうに是なうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる
うらわらる知しうらわらるうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる
うらわらるうらわらるうらわらるうらわらる

義平之方汝海より立札のくもあらしと
とらぬゆりりみまひりつゝも源氏のたき
しりれつゝも武士のたきはくもまきあ
くもふ平家にあらしは入ふくも海のか
くも馬なやむとあきおとくもくひれ
を源氏流計もあらしめて門より外に計志
里をきやつく河なをせりく河原とあ
しりりりきり義と色是とく流して
義平の河よりゆに計つゝの海よりくひと
と海つれしと何とくくもくさくちと

ちんとそくきくもくれは廻回よりとん
てとりみまひりよちくもくひりつゝも
源平より矢張りあしりり色さくゆなりとせ
ともくくも源家より計人めきと事と
りゆりりもくは梅樫の林は餘木なれ
らん海んおよむ石くもくもくもく
なまのくも源氏もくくもくもくもくも
くもくも名なをくもくもくもくもくも
合戦も馬なりと人つゝもくもくもくも
くもくもくもくもくもくもくもくも

はたしなむとてかたじけなくもつらき
よのちのわがしるしをいかにいかに
人のよのちのしるしとてかたじけなくもつら
き事なりし事なりし事なりし事なりし
なまじりし事なりし事なりし事なりし
軍の馬の御供の御供の御供の御供の
白のつらき事なりし事なりし事なりし
くしては御供の御供の御供の御供の
おなごの御供の御供の御供の御供の
もよおしなむとてかたじけなくもつら

けしなむとてかたじけなくもつら
き事なりし事なりし事なりし事なりし
なまじりし事なりし事なりし事なりし
軍の馬の御供の御供の御供の御供の
白のつらき事なりし事なりし事なりし
くしては御供の御供の御供の御供の
おなごの御供の御供の御供の御供の
もよおしなむとてかたじけなくもつら

らもせり

義朝といはれし事

去程より一々の波羅乃合戦は其
由をせよとら治しとせられの事
人のたつやとせられたるは之條河原よ
う藤田兵衛の頭をいふるしひ
て其も治すしとせられたるは其
よりせしとせられたる事
ぬれぬしとせられたる事
しとせられたる事

治代にむらうしとせられたる事
あるはあつたあつたの事
かよつたあつたの事
源とせられたる事
しとせられたる事
あつたあつたの事
しとせられたる事
あつたあつたの事
しとせられたる事
あつたあつたの事
しとせられたる事
あつたあつたの事

一高の君佛前、總てらゝし、
くちもももあなをゆらぐ、
さいつしあつし、
をせぬひく東國のく、
君乃内中、
ゆくせのく、
よさかうりあつし、
よなこ、
うをせあつし、
夕程の、

身を後の十と、
んいつし、
り十回、
うをせあつし、
乃かりの、
衆より、
よ入、
くちもも、
て所、
白、

清くありしうへをたんとしはかきし神
 うぬを乃中よりいぬたまりき
 君よせしとていきていぬつせたまは
 いりふのりかへはなるけりあまぬよは
 うりはあかきも不ゆえきしてたふき
 里うちまひてあちんてんてん
 やすちりすりわひなごきごうて清く
 ひをとりし神あつしとぬてをさあ
 たりせりあつてんあはれんあ入る
 へきは只ちあらんてなふはよむせひ

清くありしうへのかきりよちりあは
 れ僧乃所このををすつてそあは
 てしあはてそをらわれなるま極
 めたあは軍兵をちりてあちり
 とむせしあはれはちりてあはらむ
 うらあはなはさしてあをうさへく
 ていりていりてあはれはちりてあ
 ちりてあはれはちりてあはれはち
 りてあはれはちりてあはれはちり

あはれやちうくらんをせしめんと
くろし敷ふおにせよのりよのりよのりよを
ふみ大原の(なり)こころしししししししし
の法師をばさういふなちうくらんを
らんやこころしししししししししししし
うせしししししししししししししししし
あしししししししししししししししし
よしししししししししししししししし
まじししししししししししししししし
きれこのけのけのけのけのけのけのけのけ

こころしししししししししししししししし
ししししししししししししししししし
あしししししししししししししししし
てしししししししししししししししし
あしししししししししししししししし
死は志ぬしぬしぬしぬしぬしぬしぬし
うせしししししししししししししししし
よあん個のなちうくらんをせしめんと
てしししししししししししししししし
あしししししししししししししししし

新友別當の御書
家やのうらみ極みちんくちねくせき
大元の中にちねのむし色なしかなり
しやひらん皆引てそゆる義朝の
乃松原のすきらちるめあくらや
とよむりしむのひめんとぬえ
つららつとつてりこまをて
四つらんむしやらりむて
らんしそむらこつらわら

ゆゑ義朝あきらめさく
この御年一のぬくちんくちねくせき
とつちしつとつてりこまをて
あつちんむらうらむしそむ
つねなるむらうらむしそむ
あじらむらうらむしそむ
さねなるむらうらむしそむ
ちりけむらうらむしそむ
いふといふくちむらうらむしそむ
なむらうらむしそむ

よはらふしつて味もよはらふかしの
好の其夫川のなるくすも〜まのひに
とじらつて節を〜とて〜まを〜を
あひひひひひ〜と〜あ〜ぬていあ〜馬
それ〜やめ〜も〜する節〜あ〜しれ
ゆ〜ひひ〜と〜せ〜し〜と〜あひひひ
ふら〜ら〜夫〜ら〜め〜れ〜の〜ひ〜軍〜さ〜め
た〜ら〜つら〜の〜事〜が〜事〜け〜し〜それ〜れ〜後〜統
の〜め〜〜し〜て〜ぬ〜し〜ら〜つら〜ぬ〜し〜れ〜な〜ら〜ぬ
や〜ら〜あ〜ら〜ん〜と〜物〜の〜め〜ら〜ら〜ぬ〜は〜と

す〜し〜と〜ら〜ふ〜し〜は〜な〜も〜め〜ひ〜ひ〜あ〜ら
後代の色〜一人もぬ〜と〜ひ〜ら〜ら〜る〜者
〜と〜も〜と〜ま〜ら〜せ〜ら〜せ〜ら〜ぬ〜と〜卒〜と〜と〜と
は〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
と〜山〜後〜左〜衛〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
の〜ら〜ら〜大〜旅〜大〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
答〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
事〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
よ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

むもろんゆありさぬよらんも海に
 船こけんかりの海にあらんす
 せいぶとくしんりてあむい
 しんちんりてあむい
 ちんちんりてあむい
 いおのりてあむい
 乃津代りありしんりてあむい
 将りてあむい
 なりてあむい
 りりてあむい

信頼のうそん事并にこと事

信頼の信頼のうそん事并にこと事
 八世乃松原よりなつていりてあむい
 海にゆきありしんりてあむい
 ちんちんりてあむい
 志願のしんりてあむい
 川来よりしんりてあむい
 なりてあむい
 船りりしんりてあむい

けり色くもんを後い谷川あり馬より
り記を後一川つひありゆきまゆせ
やれもなきけしものいふよきま
さう後のむいもさうけけたもあも
さうくくくの入ありのゆきさ
もりされさうり又馬よりあきさ
いけく入をゆりんとししよ色ハ仁和
寺つくありあもせんあきせけあさう
山法師の死しあなさうくくくゆる者
もりあきけあしきり法師あきをえ

け書中に志れんてしゆあらし人のゆり
あさうすてそきんうらうきえ地の
あきさきせりあきりやれ武部大輔あ
あきもきいせけりらりやらし人をおうて
なうさう人向くの歌いあなれあき
あきさうゆりあさうさうさうあき
あきさうあきさうあきあきあき
あき北あきあきんあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき
あきあきあきあきあきあきあき

所一もなしてさうなむいりあを
 うんせいのねらうらひさういせなる
 かありやくなし終ひくなはらたたく
 ころなりぬれもいもささし終ひ
 中書よりふさうさうあつかひよく
 いらすくしらえうなひいらのらうり
 なたもすをぬらして自地あをられ
 きもたむ勢の大輔もさうさくかり
 それより大自衣してさうらつた和寺
 (まかりじ) ねらちつものなるるあれの

御のりさうをわんすらんそくして
 るるさうまうさうらつたさうり
 ちのたさうすたえの源中納言ら
 なるつとほつりさうこれ中將なりら
 ちほつとせさうらふ自りさうあをん
 ちういめさうし人となせたまさうさう
 一とあさうらふさう信賴なりさ
 ちあつと御書とほつと路ありさ
 あつとほさうちまうらさうらさう
 てらつとせぬれさうはつと者ら

かきくしむれしそむるこらるしつらり
ありさゆなりりしそほ院あきらめ
あきさむゆくのいさやうつらありあゆま
十日より内裏よめりてゆきりしを
なりぬししつら首官もさう蛇めくを
そき萬民虎狼のふいとあやむしめ
かよめりゆゆつらゆきぬもなをなを
しつらゆつとそきんむの徳人あや
かいたれ言方太史ありしゆきんむを
夕陽よ死なぬつらゆき白居易めしゆ

しつらゆつとそきをゆきしつらゆき
七年かりちり入るれつらゆきゆきゆき
書ゆくりゆしゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
書門のうゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

いふ事と云うは入道か云々といふ事
而後なむおまの世よなまらむとせら
せむらひの志よまらむとせら
力をとらむとせら
つひの世の志よまらむとせら
う家起つ事なり
ふりもむひなとてまらむとせら
よまらむとせら
ちうの世の志よまらむとせら
いふ事と云うは入道か云々といふ事

いふ事と云うは入道か云々といふ事
而後なむおまの世よなまらむとせら
せむらひの志よまらむとせら
力をとらむとせら
つひの世の志よまらむとせら
う家起つ事なり
ふりもむひなとてまらむとせら
よまらむとせら
ちうの世の志よまらむとせら
いふ事と云うは入道か云々といふ事

あやうしうのうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの

—うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの

官軍ちのうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの

うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの
うらみうらみうらみうらみの

竹取かぞく東山下 一 赤くきんせら
きりし嫁女たるくしん房に宿所河終り
少路すくし洞院かろしなきはむり
きくしんの相殿くしをきりり 一 三
う分明よみ竹頼の伏見の母り 一 七
せんをいりたる色くしをきりり 一 三
りりきりりかめんきりり金よあわく
きりりきりりきりりきりりきりり
きりりきりりきりりきりりきりり
のりりきりりきりりきりりきりり

とりのりのりかろし 一 七 父子はよちり
せしきやきりり 敷後ちりりかろし 一 七
大貳清盛の正三位は 一 七 ちりり 九
きりりきりりきりりは 一 七 決男大
別ありきりりの大和は 一 七 男宗盛は
のりりきりり清盛金身三河も頼盛は
尾流きりりきりりきりり武右衛門
仲路はきりり補正上卿の花山院大初之
多きりり心藏の藤人朝言とそわ
し竹頼の正令兄兵部乃権は竹頼

みら今免尾法の子將がうゝ子息が
侍後がうゝ横磨のちや朝中交代した
史を朝中右兵衛と頼朝のちの式
に大補重臣とらちのちの序極田島東
ぬまのちを三人の官職をうゝはは
あ人やうゝあおられて國初格に少輔と
みら今免尾法の子將信俊の替後の
國初格のうゝれうゝ其和哉のうゝせう
者後がうゝおれうゝりうゝりうゝり
急よかうゝてうゝん一門のうゝりうゝ

今自にちうゝを愛つゝとんた
そいし施をうゝうゝうゝのうゝ
春花のうゝうゝうゝのうゝを
秋乃おれうゝいあうゝうゝ
うゝうゝのうゝうゝ一長乃月
うゝうゝうゝうゝうゝうゝの
海なりうゝうゝ死冥をうゝん
同ようゝうゝ盛衰をうゝり
生界の中ようゝ難をうゝる
川天白鳥二年に對馬の源を親

殊をわたりしきりしをそとをの院御代
久壽二年の卯の也既。三十歳の天
下勅ありて民唐堯舜乃仁惠のかり
河内波治て用命を天曆に徳政を
ののみ保元合葬のそく法中初と
このころ治しん後より一と事と一に
幾程乃年月を也送るるふ又此記お
まゝ人多くと一と世に末よ如
多國馬のゆるり四節をわらんといひ
人の頼あり同く廿九日公のせんさきとく

此後大いに凶徒を令し宿しらる
とき怒り多かりしうのらむしとて
還幸なりん事とらるるもりのり
らむし海らしくなりしとやむ

常盤ちる志ん 并信西子息各記ん

あゝ志んせつし海事

爰に大馬乃領義と名れ末の九條乃院
のころ一常盤つららよと人とい兄
としとあらそや七のなり中ハしりえ
あ末ハ牛ありとと年生れぬり義朝

ぶらり申公の事一と云われ今世の金主
凡なるより此一と合戦よりら海をく
つらしむるをならしむる心はあはれ
なりみてもいふ事又一と云われ此の事
とも公卿の事ありあはれむと云ふ事なり
其縁の深しをも多分なり我れは
も縁結合してつらむる事いと云ふ事
もあはれむと云ふ事ありあはれむ事なり
さへ一と云ふ事ありあはれむ事なり
願ふ事ありあはれむ事なり常路な
る事ありあはれむ事なり

をよの代乃由人等しを御ぬる事
あはれむ事ありあはれむ事なり
るも御しよ事なりあはれむ事なり
いと云ふ事ありあはれむ事なり
是乃よを御ぬる十二人なりあはれむ事
君の御ぬる事ありあはれむ事なり
忠臣の御ぬる事ありあはれむ事なり
朝よなる事ありあはれむ事なり
あはれむ事ありあはれむ事なり

ゆきよまのせしるしをけしう何事そ
心のかうしと云ひこじんをりしとく
名りつゝまれしおふらり同むけ事そ
天らわしよやあつまんもらんそを御
多利大初書經宗別苗これかゝるも
あらるを天下乃志わらんよほまれ
君もさるあやゆりしとくしんあ人の
りやうり虚名ハ立まぬ物な色いつく
なりてしりてあまきつひむのあまき
のちらきいとあつて色くろあはけ井あ

尤還り愁。沈り信面の子世の外
智人。もろれ和漢のさい身よそな
まろいなきあ。なもしし其目もくも
あまあし。家合し。家城のしつを
つらりし。あひよをありなれ御
しれろ西海。なもしし人ら八
乃志厚ら母別き。東西下はも
うらり。の里れ。山河とあし。あま
れや。しんあ。あつた中。も揚。あ中
將成。あ。の老。あ。あ。な。あ。あ。あ。

なありよそく色うきんけさうひよなを
じりせめしけねすくろたしよま
あまよすししてひも命り給いさら
らるあつしつみ命ん馬をさうさ
らねるるあまのあまらふいほとあえ
なまらつゆとなめりあるるれ
あまのあまなまよまにけにいつまなま
よのいほむしあいのうらまらひ
うらまらふまらうらうらうらうら
よあまらうまのうなまらうらうら

初あま名よのいさうし物ねく其
よ公ななまらあまらけき福をう
ちあまあまらうらまらまらまら
つあまらまらまらまらまらまら
らまらまらまらまらまらまら
あまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまら

し後乃毎一毎よめぬきは

うけの夢のそふらんしにどいさあり
しり今のすもあましくわと跡しあふ
りみまけいふ多しんたてしあしり
あ

しゆきあふたふたははる事

去程よた馬けりしにわしはうし
あよりしあけりしひを足後お後あ乃
御子け名あしびんわりしをうし
りたる世をうしむる力やしをな

ゆきしそなりし合佛しとあしり
うみ一馬乃かこりしむるしりし
はそひをあしりしむるしりし
はそりしむるしりしむるしりし
あしりしむるしりしむるしりし
しりしむるしりしむるしりし
あしりしむるしりしむるしりし
あしりしむるしりしむるしりし
あしりしむるしりしむるしりし
あしりしむるしりしむるしりし

この色沖と色はうまきくし何れも
なつひのあこやもなるよりむひも
とくくしとけぬの力をよつてとて波
多れ治部よりみらとてうけあし
治部よりよき母を別番をうけあし
たいのうしよ小卒共然る治部卒共
者とてあつたら右馬房せう金子は十郎
うらまのぬ八郎をさう免して廿二
のほぬりあしよ。國一りうり
のしよ色は一所はならしきなるらや

色一色源吉よりむし次やん中あめ
大史志んとも長三なん右兵衛のすま
よりともさとの武助乃大輔志をなすり
卒共乃治部よりけあれしこの後田兼
政も金王丸つらよ八三なりり治部のすけ
よりともさのむりくとも今卒十
之物れきして後白乃のくともつれぬひ
くさの馬祿やうをけ治部のなんより
うらなれけけ會わす後志のくとも
つみよくつらよのくともさうりぬか

しとく皆しうひよと結いぬきよんら
家もをぬのさよふもくしんをうらぬ
ほつひしものわらもらうらつていつひ
あさうりそも海ひつり丹おたをぬき
らせうれうりうらもいつくしとく
濃の酒あわらうけ志ぬくいつくしとく
うら長者大娘うむもあさんもといふ
願後沛くうらうらあうらうらうらて女
子一人なりうらうら舞又沛きんといふ
よならうらもぬらうらうらうら命とぬ

もとぬきあ入るも海ひのなぬあなうらも
てうらぬくもうらうらうらうらうら
うらぬしひくうらうらうらうら陽道を
せぬくぬあぬくもぬたのりの信州うら
うし志なぬ源氏とぬ路のうらうら
志あうらうらぬ海ぬぬをきうらぬ
かぬうらうらありうらうらぬうらうら
ぬうらうらうらうらうらうらぬうら
ぬのわらうらうらうらぬうらうら
ぬん中あけあまの志かぬをうらうら

くせともしる電張乃聖まよのじらめと
う馬也のをいふくと結らんすし
あふり人の年賀乃四郎おさうの大徳
人よく世帯らつたよのなれの木ちん
かうしあんな事つくとくあれたまも
福田うきうしなまの何のるあんとし
あふりいさくつとつたはよりあつり
あひだんらんつたれより義しむり
あふりやうし海道いさゆつとあつり
えつて記なる是よりつとつとあ

あふりいさくつとつたはよりあつり
あひだんらんつたれより義しむり
あふりやうし海道いさゆつとあつり
えつて記なる是よりつとつとあ
あふりいさくつとつたはよりあつり
あひだんらんつたれより義しむり
あふりやうし海道いさゆつとあつり
えつて記なる是よりつとつとあ
あふりいさくつとつたはよりあつり
あひだんらんつたれより義しむり
あふりやうし海道いさゆつとあつり
えつて記なる是よりつとつとあ

小幡いなりしむらさきもらんよ大車
ありしりせし沖湯ををぬくもゆあ
しむらし入もく橋七お節いん個よ
ぬら大ちしな色いんてなうし一ゆ七兵
嘉演田け三節いんてなうし一ゆ七兵
流一ゆつしむらさきもらんよ大車
多酒を志ひ伏しそしぬうを志ひぬ
しんがしぬうし色ぬしぬしぬしぬ
しんがしぬうし色ぬしぬしぬしぬ
やひのしぬうし色ぬしぬしぬしぬ
玄光

法師たのしきゆきしむらさきもらんよ大車
かあぬしぬうし色ぬしぬしぬしぬ
ゆわんしぬうし色ぬしぬしぬしぬ
あしぬうし色ぬしぬしぬしぬしぬ
御しぬうし色ぬしぬしぬしぬしぬ
のぬ志んぬうし色ぬしぬしぬしぬ
志んぬうし色ぬしぬしぬしぬしぬ
三人の者志んぬうし色ぬしぬしぬしぬ
をぬしぬうし色ぬしぬしぬしぬしぬ
うつぬうし色ぬしぬしぬしぬしぬ

うらさあしくそるんらん海を渡る
めんとして長刀おこらう一里海濱のり
澤田もろやうしきあしやせうし
をさうしあかうしちやうて金玉丸と
二人たれもあしきくゆりあし
飲さりあせてぬくちせうちあし
入じきもみせたりせりし困心を
しきれよらうあしきくちう
しきれよらうあしきくちう
うらさあしくそるんらん海を渡る

うらさあしくそるんらん海を渡る
めんとして長刀おこらう一里海濱のり
澤田もろやうしきあしやせうし
をさうしあかうしちやうて金玉丸と
二人たれもあしきくゆりあし
飲さりあせてぬくちせうちあし
入じきもみせたりせりし困心を
しきれよらうあしきくちう
しきれよらうあしきくちう
うらさあしくそるんらん海を渡る

後しむるにうらふく史明師のては
うまうて福のく縁はうあてふさぬ
ふむのむとよまうしあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん
うまうてふりもあはれあんとん

乃う初は天とれあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん

頼朝あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん
あはれあんとんあはれあんとん

海りゆししきつらん女成つじりなり
一からみらもあしぬ岩はは付る
とつゆしふ知りしつらうのひんあひま
のまじひの外は情まきく人成きし
事よこそなりし海をよすしはゆ
いつくぬもゆんそしあは後りな
きんこりきしあのみよひのわら
あふさるゆつたをとしんそく
よとまきしは海をあしおのひ
あひししき女はかきつらよあし
つ

ちりりしる海家古力なまき
つらぬ我のらうせきしこけ女成
しんゆそいそあふさるしんそ
くれ大娘のしりゆまじしり
もなりしし海の延まなにあ
まよつししはぬ古前乃海
入あしきしきし海うし
まのりししし東國海らり
しそつそあひまはひや
大娘あしきしきし

佛教大學新藏

273099





